



1 本田明二(撮影:佐藤雅英)、2 本田明二 初個展はがき(1952年)、3 本田明二《けものを背負う男》札幌芸術の森美術館蔵(撮影:佐藤雅英)、  
4 昭和30年代の札幌大通公園、5 ながわ・つかさ、6 砂澤ビッキ(撮影:佐藤雅英)、7 音威子府村哉島の砂澤ビッキのアトリエ、  
8 砂澤ビッキ《四つの風》札幌芸術の森野外美術館蔵

彫美連続講座 2021

# この地ならではの表現を求めて

## ～戦後昭和期における北海道の彫刻家を中心に～

日本のなかでも、独特の自然環境や歴史を有する北海道。

ここで育まれた美術作品には、きっとほかの地とは異なる表現が見られるはずです。

昭和30年代の札幌の美術界に旋風を巻き起こした美術評論家ながわ・つかさの視点や、北海道に定住し彫刻を生業とした最初の彫刻家本田明二、自然と向き合いながら木を素材に制作を続けた砂澤ビッキなどの活動を通して、北海道の独自性について考えます。

さまざまな面でいま以上に“内地”との差を強く感じていた時代を見つめ直すなか、北海道ならではの文化を今後さらに深めていくためのヒントが含まれていることでしょう。

今年4月に着任した本郷新記念札幌彫刻美術館の新館長が、長年にわたり手がけてきた展覧会や調査研究をもとにお話する講座です。ぜひご参加ください。

- 日時：2021年 **6月13日(日)** 10:30～12:00
- 定員：オンライン聴講(Zoom) 60人(事前申込制) ● 料金：500円

※会場開催を中止し、オンライン配信のみの開催といたします。



講師：吉崎 元章 (本郷新記念札幌彫刻美術館館長)

1962年北海道苫前町生まれ。北海道教育大学札幌分校特設美術課程卒。  
札幌芸術の森に1986年のオープン時より勤務し、1990年開館の札幌芸術の森美術館に準備期から学芸員として関わる。  
2008年から副館長。ヴィーゲラン展などの彫刻の展覧会や、本田明二展、伏木田光夫展、八木保次・伸子展などの札幌の彫刻家や画家の回顧展を担当。また、「中根邸の画家たち」「さっぽろ・昭和30年代」などの札幌の美術の歴史を再検証する展覧会、「SAPPORO IS WHITE」「真冬の花畑」などの北海道の現代美術を紹介する展覧会をはじめ、多くの展覧会を手がける。  
2016年から2年間の地域創造への派遣、2018年から3年間の札幌文化芸術交流センター SCARTS プログラムディレクターを経て、2021年4月から現職。

申込方法

- オンライン聴講 下記 URL より申し込み ※申込には会員登録が必要です。

<https://chobi20210613.peatix.com/>

受付締切：6月10日(木)

